

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

全力で挑む

校 長 磯部 裕之

暑すぎず寒すぎず、良い条件のもと、今年の運動会が無事に終わりました。

運動会の競技や応援、係の仕事に取り組む子どもたちの姿を見て、今年もたくさんの感動とエネルギーをもらいました。

運動会の魅力、それは「全力で挑戦する」ところにあると思います。

各学年の徒競走では、ゴールに向かってどの学年の子どもたちも一生懸命走ります。途中で転んでも、また起き上がってゴールを目指す子。靴が脱げてしまっても、履き直して最後まで走り切る子。その姿は、見ている者の心を熱くします。

1つの競技が終わるたびに、全身で喜びを表現する子どもたちを見て、テントの中からは「あんなに全力で喜ぶことって、大人になると、そうそうないよなあ」といった声が聞かれました。全力で喜び、悔しくて涙を流す。それも、運動会の魅力かもしれません。



応援団の子どもたちの、運動会までの取組は、本当に立派でした。「あんまりに成長して、もう別人です」と担当の先生が話していたように、応援団が発足してからの1ヵ月、あらかじめ決められた練習の日程をこなすだけでなく、休み時間に自分たちで集まって相談したり練習したりしながら、当日に向けて準備を重ねてきたとのことでした。練習が始まった頃は、少し緊張気味だった表情も、運動会が近づくにつれて、みんな自信にあふれているように見えました。



5・6年生は運動会の各係の仕事にも、一生懸命取り組みました。わずか1～2回の打ち合わせで、自分の担当や出番を確認し、前日準備のすき間時間を使って、さらに仕上げの練習や確認をして当日に臨みました。体育主任から「どの仕事も、運動会を成立させるためになくてはならない仕事です」と、その意義を伝えられ、自分の競技と係の仕事を行ったり来たりする高学年の子どもたちの姿は、とても頼もしく見えました。1つの大きな行事を成り立たせるその陰には、多くの人の協力や支えがあるということも感じてくれたはずです。

多くの感動とともに実施できた今年の運動会。最後まで温かい拍手と声援を送っていただきました保護者、地域の皆様、ありがとうございました。そして、運動会が安全に実施できるよう看板を設置するなど、前日の準備から片付けまで、全面的にご協力いただきましたPTA役員の皆様に心より感謝申し上げます。これからは、夏に向けて、全校みんなで頑張ってください。今後ともよろしくお願いいたします。